トークイベント

現代アートと地域とまちづくり

登壇者

佐々木 玄太郎（熊本市現代美術館 主任学芸員）

四元 朝子（サンカイ・プロダクションLLC 広報 / アートコーディネーター）

市村 良平（株式会社スタジオグッドフラット 企画・プロデューサー）

聞き手 / 司会

太田 純貴（鹿児島大学准教授）

昨今、アート関係のイベントやフェスティバルなど、「アート」を使って「地域にかかわること」やアートとまちづくりの関係を頻繁に目にするようになりました。このときアート・地域・まちづくりはどのような関係を結んでいるのでしょうか。また、紡ぎ出される関係によってどのような風景が立ち上がることになるのでしょうか。今回は鹿児島や熊本などにおいて、アート・地域・まちづくりに堅実かつ大胆、そして具体的に携わってこられた、3 名のゲストをお迎えします。ゲストの方々のお話を参考に、参加者全体で意見を交換する機会となれば幸いです。

/ 日時 /

2022年 12月 9日（金）14:30～17:40

/ 会場 /

鹿児島大学 法文棟３号館１階103号室

/ 申込方法 /

右のQR コードまたは下のリンクから事前申込が必要です。締切：12 月 7 日（水）中

https://qr.paps.jp/lnKLn

アートは地域にどのように関わるのか。

登壇者紹介

佐々木 玄太郎（熊本市現代美術館 主任学芸員）

福岡生まれ。2013 年より現職。2017 年、京都大学大学院修士課程修了（美学美術史学）。中国の現代美術を中心としてアジア圏の文化状況や歴史・社会に広く関心を持ち、また九州の同時代作家の調査と紹介にも力を入れる。近年の主な企画展示に「魔都の鼓動 上海現代アートシーンのダイナミズム」（熊本市現代美術館、2018）、「段々降りてゆく 九州の地に根を張る 7 組の表現者」（同上、2021）、「熊本市現代美術館開館 20 周年記念 Our Attitudes」（同上、2022）など。

※「トーク内容」は変更となる場合があります。

トーク内容

・まちと美術館・地域に関わる企画の例

・芸術は「社会に貢献する」ことを目指すべきなのか

四元 朝子（サンカイ・プロダクションLLC 広報 / アートコーディネーター）

スパイラル（東京・表参道）の広報を経て 2002 年アヴィニヨン大学アーツマネジメント学科専門職過程編入、修士取得。メトロ（パリ地下鉄公団）デザインチーム リサーチヤー、パレ・ド・トーキョーのキュレトリアルアシスタント。帰国後、フランス外務省主催のダンスフェスティバル「フランスダンス03」広報、山口情報芸術センター［YCAM］シアター部門企画制作。かごしま文化情報センター（KCIC）の企画制作／広報チーフ。2016年サンカイ・プロダクション合同会社設立。東京、山口、鹿児島で、アーティストや企画展、イベントの広報やマネジメントを行う。2019年6 月「アール・ブリュット」［白水社 著：エミール・シャンブノワ］を共訳。2021年 9 月～ gallery HINGE（鹿児島市）を共同運営。

トーク内容

・アート／地域／ひとを軸にした仕事

・つくること、共有すること ～事例をもとに～

市村 良平（株式会社スタジオグッドフラット 企画・プロデューサー）

島根県生まれ。鹿児島大学大学院修了（建築学専攻）後、株式会社丸屋本社マルヤガーデンズ事業部、一般社団法人鹿児島天文館総合研究所 Ten-Lab を経て、かごしま文化情報センター（KCIC）、鹿屋市にぎわいづくり協議会タウンマネージャーなどを務めた。独立後は、中心市街地活性化・公共空間利活用・子育て支援・男女共同参画など社会課題の解決に向けた取り組みをサポートする事業を行う。2021年 9 月～ gallery HINEG（鹿児島市）を共同運営。

トーク内容

・アートに関わったら怒られた話

・地域とアートをつないでみた実践事例

・地域づくりとアートの効能

/ 注意事項 /

・ワークショップへの参加に当たっては、マスクの着用をお願いします。
・駐車スペースは限られていますので、可能な限り公共の交通機関をご利用ください。
・会場へのアクセスは鹿児島大学法文学部の HP（https://kadai-houbun.jp/access-2/）をご参照ください。

/ 問い合わせ /

太田純貴研究室（yota@leh.kagoshima-u.ac.jp）

本イベントは鹿児島大学 令和４年度地域マネジメント教育研究プロジェクト「現代アートを軸とした地域の有形・無形の知財の発掘・活用」などの助成を受けています。